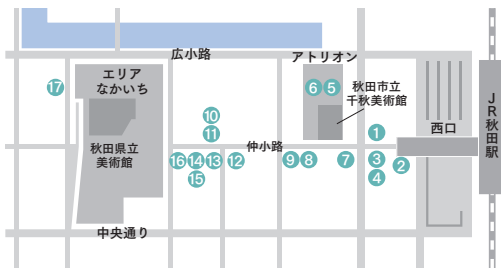


仲小路商店街

お得な半券サービス

秋田県立美術館と千秋美術館をつなぐ仲小路商店街。秋田県立美術館で展覧会を鑑賞し、半券(秋田県立美術館のパスポートも可)を対象店舗で提示すると、各種サービスを受けられます。「アートな街」をお得にお楽しみください。



店舗名	サービス内容
1 一乃穂 本店	ご購入のお客様にご試食品進呈
2 プリモカワカミ (フォンテAKITA1階)	フォンテポイント2倍
3 コーアロマティカ Koo Aromática サロンアンドスクール Salon & School (クロッセ秋田4階)	全コース5%割引
4 カフェラドゥ café La Doux (クロッセ秋田2階)	食後のワンドリンクサービス
5 秋田県産品プラザ	5%割引(一部対象外)

店舗名	サービス内容
6 札幌かに本家 秋田店	飲食代金5%割引(現金払いのお客様)
7 ブランジーノ アキタ Branzi-no Akita	お食事の方にデザートサービス
8 そば処 四季	飲食代5%割引
9 レモンの部屋	5%割引(一部対象外)
10 ティールーム陶	100円引き(平日ランチは除く)
11 食器のさかいだ	5%割引(一部商品除く)
12 CAFÉ みきょう	税込1,000円以上の飲食で5%割引
13 仲小路コーヒー&ワイン (仲小路ビル1階)	1,000円以上の飲食で5%割引
14 親鶏らあ麵 いし川 (仲小路ビル1階)	ラーメンのみ5%割引
15 ヴィヴァンメイクアップ WORKS (仲小路ビル2階)	メイクレッスン受講の方にスクリーンブラシプレゼント
16 川口呉服	5%割引(サービス品除く)
17 ダイニングレストラン ザ・キャッスル (秋田キャッスルホテル 1階)	ご利用金額の10%割引 またはワンドリンクサービス

秋田市立千秋美術館

大規模改修工事のため、2024年6月下旬まで長期休館

〒010-0001 秋田市中通二丁目3-8(アトリオン内)

TEL.018-836-7860 FAX.018-836-7862

秋田県立美術館

開館時間 ● 午前10時～午後6時(入館は午後5時30分まで)

観覧料 ● 展覧会ごとに異なる

休館日 ● 11月13日(月)～11月17日(金)、12月31日(日)～1月2日(火)、1月22日(月)～1月26日(金)、3月11日(月)～3月20日(水)

〒010-0001 秋田市中通一丁目4-2(エリアなかいち内)

TEL.018-853-8686 FAX.018-836-0877



編集 ● 秋田市artlineプロジェクト実行委員会

秋田市立千秋美術館

秋田県立美術館指定管理者(公財)平野政吉美術財団

仲小路振興会

発行 ● 2023年11月

表紙:《たそがれどきの巨人たち》フランス・ランティグ National Geographic

News from the Museums of Art

artline



特集

秋田県立美術館移転開館10周年・AKT秋田テレビ開局55周年記念特別展

ナショナル ジオグラフィック展 地球の真実

2023.11

秋田県立美術館移転開館10周年・AKT秋田テレビ開局55周年記念特別展

NATIONAL GEOGRAPHIC

ナショナル ジオグラフィック展
地球の真実

[会期] 2023年11月18日(土)
—2024年1月21日(日)

※休館日 2023年12月31日(日)～2024年1月2日(火)

[会場] 秋田県立美術館
1F県民ギャラリー、3Fギャラリー
[開館時間] 10:00～18:00(入館は17:30まで)
[観覧料] 一般1,000円(800円)、
高・大学生800円(600円)、中学生以下無料
※()内は20名以上の団体料金
※身体障がい者手帳・療育手帳・精神障がい者手帳
(ミライロID可)を持参の方と付添1名は半額
(美術館で当日券購入の場合のみ)
[主催] ナショナル ジオグラフィック展実行委員会(秋田県、AKT秋田テレビ、公益財団法人平野政吉美術財団)

1888年に設立されたナショナル ジオグラフィック協会は、同年会員誌として『ナショナル ジオグラフィック』を創刊して以来、135年にわたり歴史的発見と地球の真実を伝え続けてきました。「マチュピチュの発掘」や「タイタニック号発見」など、多くの著名な探検家や科学者、研究者たちの活動を支援して得られた記録の数々は、徹底した取材による記事と世界有数の写真家たちによる美しく迫力溢れる作品で世界中の人々に伝えられ、驚嘆と感動を与え続けています。

本展では、ナショナル ジオグラフィックが所有する1,100万点に及ぶ膨大なコレクションの中から、冒険・探検の記録、大自然の驚異、科学技術、異国の多様な暮らしや文化などをテーマごとに分けて展示します。また、誌面を飾った数少ない日本人写真家である岩合光昭、野町和嘉の作品も交え、私たちが住む地球の姿を、ありのままに捉えた写真で展望します。



《アフガン難民の少女》スティーブ・マッカーリー



《バハマの水中洞窟》ウェス・C・スカイルズ

関連イベント

●トークイベント
「ナショジオ×大森山の動物たち」
[日時] 12月2日(土)、1月13日(土)
各日ともに13:30～15:00
[講師] 小松守氏(秋田市大森山動物園 園長)
杉卓弥氏(AKT秋田テレビアナウンサー)
秋田県立美術館学芸員
[会場] 秋田県立美術館
[定員] 30名
※観覧券または年間パスポートをご持参ください。
※お電話またはFAXでの事前申し込みが必要です。

●AKTアナウンサー×学芸員
ギャラリートークセッション

[日時] 11月18日(土) 14:00～14:30
[講師] AKT秋田テレビアナウンサー
秋田県立美術館学芸員
[会場] 秋田県立美術館
[定員] 30名
※観覧券または年間パスポートをご持参ください。
※事前申し込みは必要ございません。



《地図が開く新世界》ポップ・サシャ



《挑戦者》岩合光昭



《朝日が描く絵画》フランス・ランディング



作品は全てNational Geographic

平野政吉コレクション 空を見つめる

[会期] (予定)

2024年1月27日(土)

— 4月14日(日)

※休館日 2024年3月11日(月)～3月20日(水)

[会場] 秋田県立美術館 3Fギャラリー

[開館時間] 10:00～18:00 (入館は17:30まで)

[観覧料] 一般310円(250円)、シニア280円、
学生210円(170円)、高校生以下無料
※()内は20名以上の団体料金、シニアは70歳以上

[主催] 秋田県立美術館
(指定管理者 公益財団法人平野政吉美術財団)

時間や季節、天候によって様々な姿を見せる「空」。常に私たちの頭上に在りながらうつろい続ける空は、二度と同じ姿を見せることはありません。画家たちは、空が見せる一瞬の表情を切り抜き、あるいは画家自身の心情を空に託して描きました。

このたびの展覧会では、平野政吉コレクションの中から、空が描かれた作品をご紹介します。画家が見つめ、心寄せた「空」をお楽しみください。



アントン・モーヴ《憩える牛》
公益財団法人平野政吉美術財団蔵



浅井忠《秋郊》
公益財団法人平野政吉美術財団蔵

関連イベント

●学芸員によるギャラリートーク

[日時] 2月17日(土)、3月23日(土)
14:00～14:30

[会場] 秋田県立美術館 3階ギャラリー
※観覧券または年間パスポートが必要です。

にじいろ仲小路「アライの輪」を広げよう!

仲小路商店街では、10月、多様な性へのあり方への理解を深める「アライの輪を広げようキャンペーン」を今年初めて実施しました。

LGBTQの方々に寄り添いたいと考える味方を意味する「アライ(ally)」の輪を広げ、みんなが自分らしく生きることへつなげようという、秋田市と連携した取り組みです。カフェ・ラ・ドゥでは、6色の虹色レアチーズケーキ、食器のさかいだでは、カラフルなグラスや箸が並ぶ「アライコーナー」を設置するなど、商店街の各店舗がそれぞれ趣旨にあつた企画を実施しました。

秋田信用金庫秋田駅前支店では、「すべての人が自分らしく」「ありのままの自分で」など、秋田市のワークショップに参加した方々からのアライのメッセージが書かれたレインボーフラッグが貼り出されました。

仲小路商店街は、これからも多様性を受け入れ、どの方にも広く利用していただける場所でありたいと考えています。



食器のさかいだ カラフルな食器



秋田信用金庫秋田駅前支店 レインボーフラッグ

学芸員リレーコラム

仲小路でアートを探そう (第18回)

先日、通勤途上に仲小路でふと顔を上げると、美しい空が広がっていた。大雨災害や猛暑が続いた今年の夏がようやく終わり、澄んだ空気の中に見える青い空と白い雲は、朝から清々しい気分させてくれた。

空模様は、その土地の風土を作り上げる重要な要素のひとつだ。絵画の中にもしばしば空が描かれ、描かれた場所の空気感を伝えてくれる。天気、時間、温度など、空を見ると分かる情報はたくさんあり、私たちはそれを無意識のうちに感じ取っている。

学生時代に初めてフランスを訪れ、田園地域をバスで通過していた際、何度も見ていた印象派の絵画に描かれた空と光は、実在したのだと実感した。その時の感動は、今でも鮮明に覚えている。

県立美術館の「空を見つめる」展もそうだが、千秋美術館の所蔵品の中にも、さまざまな土地の風土を伝える作品がいくつもある。生まれ育った土地や旅行で訪れた思い出の場所など、自分と作品をつなぐポイントを見つけることで、アートを身近に感じるきっかけになると、この日の仲小路の空が改めて気付かせてくれた。(千秋美術館・米山)



千秋美術館のロゴマーク決定



秋田市立千秋美術館

AKITA SENSHU MUSEUM OF ART

千秋美術館では、リニューアルオープンを機にこれからの美術館のイメージを象徴するロゴマークを決定しました。デザインは、グラフィックデザイナー・栗崎洋氏によるものです。

美術館の入口や広報物、ミュージアムグッズ等でこれから活用していく予定です。リニューアルオープン後、このロゴマークとともに千秋美術館をもっと身近に感じてください。

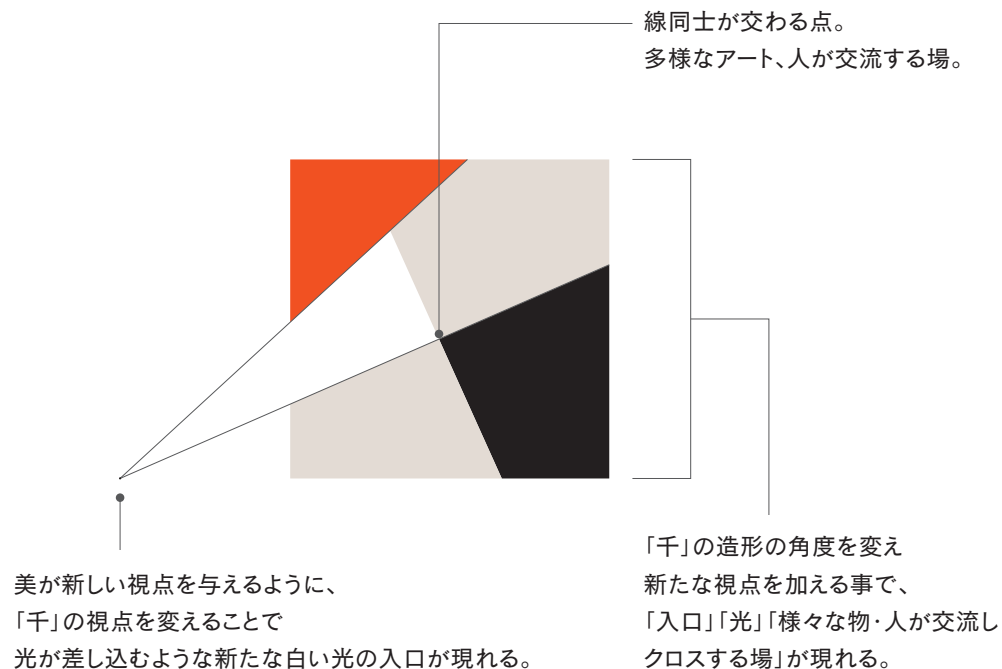


美術館の名称に含まれる文字、「千」をモチーフにしたシンボルマークです。光が差し込むように千の左側スペースを白く明るく照らし、千の角度はやや回転しています。美が新しい視点を与えるように、千の視点を変えることで光差し込むひらかれた入口が現れます。すべての人にひらかれた入口に市民が集い、「美」を体験する「場」となる願いが込められています。

色は、美術館が市民に愛され心豊かに交流する場として、親しみ・温かみのある、優しい暖色のオレンジを選択しました。中央付近で線がクロスしており、これは美術館を通してさまざまな人・物・ことがクロス＝交流する場として機能することを表します。

市民が集う公園の名前や地名として、長く地域に親しまれてきた「千秋」の由来が、秋田の「秋」に長久の「千」を冠し、長い繁栄を祈ったものであること、「秋田市立千秋美術館」の文字構成の中央に千の文字が堂々と位置することなどから、新たなシンボルマークは、「千」の文字に光をあてています。

シンボルマークのデザインコンセプト 光差し込むひらかれた美の入口



- 光が差し込む明るい空間
- 人々が交流する場
- 美術館のひらかれた入口
- 視点を変えることで新しい視点が現れる

デザイナー紹介

栗崎 洋

サンノゼ州立大学 (San Jose State University BA Graphic Design) 学士課程卒。国内2社のデザイン会社を経て、株式会社佐藤卓デザイン事務所入社。様々な案件に関わった後、2015年9月独立。グラフィックデザイナーとして国内のみならず、海外企業との取引など、幅広い領域と地域で活動している。2022年、7年間のフリーランスを経てHIROSHI KURISAKI DESIGN株式会社として法人化。